名神名阪連絡道路シンポジウム開催概要

日時：2018年7月22日（日）
場所：あいこうか市民ホール

開会セレモニー

開会挨拶

【名神名阪連絡道路整備促進期成同盟会会長　甲賀市長　岩永　裕貴 氏】

〇本道路は、日本海から太平洋に至る南北軸を形成し、道路網の機能強化や広域的な交流を促進することができる道路であり、この道路が整備されることで東近江地域・甲賀地域・伊賀地域及び周辺の広域ネットワークの強化や災害時の代替道路としての確保など期待されている。
〇二階議員がご提唱されている「国土強靭化」に寄与するものである。
〇皆様方の期待を背に一路邁進する。

来賓挨拶

【自由民主党幹事長　衆議院議員　二階　俊博 氏】

〇滋賀県・三重県は名阪国道や名神高速道路・新名神高速道路など日本の大動脈が集中している地域であり、本州の交通の要衝になっていることは皆さんもご存知かと思う。
〇名神名阪連絡道路は南北を繋ぐ道路であり、地域活性化や災害時における高速道路の迂回路として活躍する、まさに、国土強靭化をもたらす道路である。地域の皆様がこの道路を地域づくり・まちづくりにどのように活かすのか考えなければならない。
〇本日のシンポジウムが本道路の前進に向けた大きな一歩となるよう祈念して私からの挨拶とさせていただきたい。

【近畿地方整備局長　池田　豊人 氏】

〇今年度末には、新名神の亀山～四日市間が開通することになる。東西の軸が通る滋賀県・三重県は全国的にも工場の立地が高く、（幹線道路があることは）この地域にとっても望ましいこと。ただ、南北軸がないことで名神・新名神・名阪にアクセスすることが不便である。そうすると、一般道や農道に大型車が混入するという課題もある。
〇そういった意味でも本道路は大きな意味を持つ。皆様方のこの道路に対する期待や思いを聞かせていただくことで実現に近づくのではないか。

【滋賀県知事　三日月　大造 氏】

〇「健康滋賀をみんなで創ろう」と呼びかけている中で、本道路は重要になる。また、観光振興の面でも重要である。
〇物流が道路事情の面で困難を極めており、一般道路に入らざるを得ず、子どもたちや通行者の安全が脅かされている。
〇滋賀県としても本道路の実現に向けて国に強く要望していきたい。

【三重県知事　鈴木　英敬 氏】

〇個別の道路のシンポジウムに二階幹事長が来ていただくことはあまりない。それほど、重要な道路であり今日はその節目である。
〇三重県の伊賀地域・滋賀県の甲賀地域で第二次産業に従事する方の割合はおよそ５割と非常に多い。よって、第二次産業がより発展するためにも本道路は必要である。
〇道路が繋がるとドライバーの確保や負担軽減に繋がり、とりわけ、物流が円滑になることで企業にとっても大変良い。
〇政治や行政・関連業界だけでなく、沿線地域に住む人の思いが重要。

【全日本トラック協会会長　坂本 克己 氏】

〇道路法という法律がある。物流上、重要な道路を「重要物流道路」として指定し機能強化を図るよう道路法の改正がされた。本道路が重要物流道路になるために、シンポジウムに出席させていただいた。道路は製造・販売の前に物流があり、ヒト・情報・お金が流れている地域はものすごく元気である。
〇今日の雰囲気をどんどん拡大し、その熱意を高めると役所も動くことになる。

【地元選出衆議院議員　小寺　裕雄 氏】

〇志師会（二階派）に所属している関係もあり、幹事長に出席依頼したところ、シンポジウムに出席していただいた。
〇地元の思いを近畿地方整備局長に見ていただき、熱意が伝わればと思う。
〇滋賀県も本腰を入れて三重県と共に頑張ろうということでシンポジウムにも参加した。
〇今後とも本道路に実現に向けて、関係する国会議員の先生たちと共に努めていきたい。

意見発表　テーマ：「名神名阪連絡道路によって物流が変わる」
発表者：田中　亨 氏（一般社団法人　滋賀県トラック協会会長）

〇昭和４５年から平成２９年にかけて、車の数は約５倍に増えたが、車の事故の死亡者数は５分の１まで減った。飲酒運転・信号無視・スピード違反が横行していたが、法律の厳罰化・マナーの向上・地域高規格道路のように良い道路ができることで事故が減った。交通安全のためにも良い道路は必要である。

〇長時間労働について、運送業界は深刻な問題である。要因として、拘束時間が長いこと・交通渋滞である。お客さんのところに時間通り着くためにドライバーは早く出る。良い道路が出来れば運転時間に余裕が生まれ、拘束時間も減る。

〇滋賀県の東側には、約４００社ほど運送会社があり、トラック台数でいえば７～８千台ある。そのうちの６％は名阪国道を使い、奈良・大阪・和歌山に行く。甲賀土山ＩＣから和歌山県まで行こうとすれば往復で約18,000円もかかるが、名阪・京奈和道路を使えば、ほぼタダで行ける。しかし、問題は生活道路と混在していることだ。歩行者・自転車等がいる中、トラックが走っている。だからこそ、この道路を重要物流道路として作らなければならない。

〇国道307号沿いには工業団地が点在しているが、国道へのアクセスは現状では悪い。アクセスが少しでも良くなれば（重要物流道路ができれば）工業地域もより発展する。また、道路と土地活用は一体とならなければならない。行政の責任で一体で改革・推進してください。

〇７年前に石榑トンネル（国道421号）が出来て、三重県北部～近江八幡市までのアクセスが良くなった。ただ、滋賀県側のダム周辺の道が悪いが、現在、拡幅してくれている。そうなると、スムーズに車が交差できる。そして、名神名阪連絡道路ができると、「魅惑のトライアングルゾーン」（田中氏命名）が生まれる。そこの中には１０以上の市町が含まれており、経済・観光・物流のポテンシャルもすごく高い。

〇伊賀市には伊賀上野城があるが、その城は熊本城にも勝るとも劣らないほど素晴らしい。というのも、石垣がすごい。また、伊賀牛専門店にも行った。本当に良いところだが、伊賀市は近くて遠い。なぜなら、道路がないからだ。本道路ができれば、観光面でも良くなる。

〇７月の西日本豪雨では災害の未然防止のため、多くの高速道路が通行止めとなった。滋賀県の道路の問題は、高速道路や国道・鉄道など瀬田川付近に交通が集中していて、もしその付近で道路が災害で止まったら東西の道が塞がることになる。関西エリアが大混乱になる。そういったことに対して、国土交通省がリダンダンシーを謳っている。災害代替道路を意味しているが、名神名阪連絡道路は代替道路になる。早くこの道路は作るべきであり明日にでも予算を付けてほしい。

パネルディスカッション　テーマ：「名神名阪連絡道路による地域づくり」
コーディネーター：岩永甲賀市長
パネリスト：〇田山　雅敏 氏（産業分野代表）　〇山本　身江子 氏（地域代表）
〇松山　正己 氏（地域代表）　　〇小山　剛 氏　　（観光分野代表）

テーマ①「**各分野の現状と日頃感じる課題**」
田山氏：
〇津市や鈴鹿市と生活圏が違うので、南北軸の道路は必要である。名神名阪連絡道路なくして、伊賀市の発展はないと考えている。そして、甲賀市を通して滋賀県と結びつきを強くしたい。
小山氏：
〇日本遺産の認定をいただいたが、観光地としてはまだまだ認知されていない。
湖東地域との繋がりが必要であり、本道路があれば長浜市・彦根市・近江八幡市から伊賀市まで観光面で繋がり、観光のストーリー性が生まれる。
松山氏：
〇土山町の人間であるが、この地域は鉄道がない。だからこそ、道路の大切さは感じている。また、甲賀地域・東近江地域を畿央地域として首都機能移転の動きがあった程、立地条件は良いが、道路がないことがネックであった。
山本氏：
〇名神から名阪に抜ける大型トラックが多く、生活道路として利用している住民は危険を感じている。また、高速道路へのアクセス道路の整備が遅れている。

テーマ②「**名神名阪連絡道路がもたらすストック効果**」
山本氏：
〇生活道路への大型トラックの通行が減少し、安全面が確保される一方、道路の建設に伴う自然環境への影響や維持管理は課題である。
田山氏：
〇甲賀市は薬のまちで有名だが、伊賀市もメディカルバレー事業を進めており、本道路で甲賀市・伊賀市の繋がりが強くなることで、医療分野の産業地帯が生まれる。また、リニア中央新幹線や四日市港へのアクセスが良くなる。
小山氏
〇道路ができることで、甲賀市へのアクセスが容易になる。道路が繋がることはマイナスにはならない。
松山氏
〇地域のフットワークを軽くする。海外からの観光客のアクセスも良くなる。

テーマ③「**名神名阪連絡道路の重要性**」
山本氏
〇女性目線で言えば、やはり生活道路の安全が確保されることが大事である。道路と関連付けた新しい街づくりの地域として、道路の愛護活動を展開したい。
小山氏
〇道路は文化や伝統の交流に重要なもの。本道路には期待している。
松山氏
〇この場にいるみんなが本道路を望んでいる。ただ、具体的にどのように作るのかコツコツと考える必要があり、まずは行政手続きを進めるため、行政マンが真剣に取り組んでほしい。それに加え、地域住民も思いを一つにすることと、夢や希望を持って、この道路に臨んでほしい。
田山氏
〇伊賀地域と甲賀地域の発展は共にあり、お互いの地域の交流を進めていくためにも道路整備が必要である。どこの区間から始めるのかが大事である。

※各パネリストプロフィール

田山　雅敏 氏　（上野商工会議所会頭・中外医薬生産株式会社代表取締役社長）
松山　正己 氏　（元土山町長・松山産業株式会社会長）
山本　身江子 氏（日野町地域女性団体連合会会長・滋賀県地域女性団体連合会副会長）
小山　剛 氏　　（株式会社水口テクノス専務取締役・一般社団法人水口岡山城の会理事長）

閉会挨拶

【名神名阪連絡道路整備促進期成同盟会副会長　東近江市長　小椋　正清 氏】

〇普段のシンポジウムで来ていただけないような方にも参加していただき、大変、感謝申し上げる。
〇南北軸を形成するという明確な意図を持ち、東西軸と連携していく。
〇本道路は歴史と文化が集積したこの地域を、より活気付けることができる。